

*EPO 東北オフィス利用案内

EPO東北のミーティングルーム貸出 (無料)

- 環境活動、震災復興支援活動のミーティングやセミナーにご利用いただけます。
 - 開館日/月～金
 - 利用時間/10:00～18:00
 - 利用人数/30名まで
- ※時間外、土日の利用も可能です。事務局までご相談ください。



◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。お気軽にお立ち寄りください。チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。

*Web-Siteのご案内

- ◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
 - ◆随時更新：お知らせ、活動報告、日記
- 3.11あの時 stage2013

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先の現地レポートが人気です！大震災から2年が経過し、2013年度は「3.11あの時」ヒアリング後を伺った追加レポートも掲載しています。

メールマガジン登録者募集中!!

発行：第2週と第4週の毎月2回

登録：無料

内容：環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

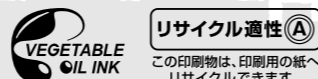
EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F
TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp>

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】
休日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



TOHOKU EPO通信

[エポ] 東北環境パートナーシップオフィス vol.17



馬とともに山に入り、馬で木を運ぶ「馬搬」(写真提供：岩間敬氏)

Contents

- ※EPO東北の取り組みについて
「3.11あの時」冊子化 第2弾
東北の環境活動を応援しています
- ※復興支援グッズ
- ※東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

— EPO東北の取り組みについて —

「3.11あの時」冊子化 第2弾

2011年4月25日からはじめたEPO東北の取り組み「3.11あの時」レポートは、2年間で74件ものレポートが集まりました。混乱のさなか、EPO東北ができる支援を探すために始めた、現地の状況把握のためのヒアリングがきっかけでした。県外から現地に入る団体に向けて、あるいは現地を心配する皆さまが情報を得る場所として、現状を伝えるためにWeb-siteに掲載し、全国のEPOを通じて地域に発信してもらいました。この活動は予想外の役割を果たし、安否確認の一助となり、これから被災地へ入るボランティアや企業の皆さまが現地の状況を把握するため、あるいは当時のことを知る情報源として活用されたことは、大変嬉しいことです。

すべてのレポートが「3月11日(金)14時46分」からはじまるこの記録は、さまざまな立場の方にそれぞれの視点からお話を伺いました。ヒアリングは1時間から、長い時は3時間にも及び、思い出すには辛い記憶を時には涙を流しながら話してくださいました。あの日の出来事、復旧や復興を支える取り組み、現実と向き合い立ち向かおうとする姿勢。それぞれの決断や葛藤をも克明に記録した「声」は、単に震災の記録や防災の喚起に留まらず、多くの学び、これからの活かすべき教訓が語られています。

冊子化を求める周囲の声に後押しされて、2012年5月には40の「声」を記録した冊子「3.11あの時」を刊行し、2013年5月には34の「声」を記録した第

2号となる冊子「3.11あの時stage2012～そして、これから」を刊行しました。日々の暮らし方、人との関わり方、自然との付き合い方を改めて見つめ直すことの大切さが述べられている、示唆に富む証言録です。多くの方に読まれ、そして活用されることを願いながら、EPO東北では2013年度もヒアリングを続けています。



冊子「3.11 あの時」 「3.11 あの時 stage2012」

無料配布

EPO東北のWeb-siteからPDFデータをダウンロードできます。

冊子をお求めの方は、EPO東北までお問い合わせください。郵送をご希望の方は、送料をご負担くださいますようお願いいたします。

また、冊子は在庫に限りがございますので、数部ご入り用の場合は事務局へご相談ください。



東北の環境活動を応援しています

■事業型環境NPO・社会的企業の支援

非営利組織であっても環境NPO等が自立、継続して運営するためには、補助金などの公的資金のみに依存しない活動資金の確保や経営ノウハウが必要です。一方で、自立した事業活動を行なっている環境NPOは大変少なく、継続性に課題を抱えているのが現状です。持続可能な社会の実現を目指して、地域の未利用資源の活用・保全を通じて地域社会を活性化し、地域の社会変革をもたらす事業活動を担う「NPOの事業化」や社会的企業の活躍が期待されています。

環境省では、環境NPO等を事業型環境NPO又は社会的企業として発展させていくため、環境関係の民間団体等を公募し、企業、自治体、金融機関、中間支援組織等と連携しながら全国に普及しうるビジネスモデルの策定を行なっています。昨年度からは東北地域での活動に特化して公募を行ない、平成25年度事業では2件が採択されました。



平成25年度 環境NPO等ビジネスモデル策定事業採択団体

《宮城》一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ

事業名「地域の誇りを醸成する”湾プラットフォーム”作り」

《岩手》株式会社 紬

事業名「未利用材を活かした新たな価値創造による豊かな森づくり事業」

【参考】環境パートナーシップオフィス (GEOC) <http://www.geoc.jp/socialbusiness/model>

・平成21年度～24年度に実施した事業において策定された事業計画書が公開されています。

・ソーシャルビジネスをつくるためのポイントをまとめた『事業計画のしくみ -NPO・社会的企業の環境ビジネスことはじめ-』もご覧いただけます。

■地域の環境課題解決に向けた協働取組みの支援

前号でもご紹介しましたが、平成24年10月に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律(環境教育等促進法)」が完全施行され、本年4月より完全実施となりました。この法律に基づいて行政、企業、NPO、市民を含む多様な主体が協働取組みを促進するために、参考となる事例を形成しようと、「環境省地域活性化を狙う環境保全活動の協働取組推進事業」が始まりました。公募により全国で16件、東北では1件が採択されました。本事業は協働取組を推進していくうえでのノウハウや留意事項を明らかにし、参考事例として広く共有・普及することを目的としています。

平成25年度 地域活性化を狙う環境保全活動の協働取組推進事業 東北地方採択団体

《宮城》一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会

「東松島市の復興を支援する環境保全協働取組事業」

EPO東北では東北地方環境事務所と共に、この2つの事業について地域支援事務局として伴走型の支援に取り組みます。



復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ (マイバッグなど)

1 米もろみ粕配合の洗顔石けん「奥州サボン」

岩手県奥州市の休耕田で栽培したお米からエタノールとエサを作る地域循環プロジェクトから誕生した石けんです。

奥州のお米と麹を使用してつくった、無香料、無着色の石けんです。こだわりの低温で60日間熟成、お米と発酵の力を活かすため、麹、酵母をたっぷり配合。製造工程で廃液が出ない環境と肌に優しい石けん、お肌しっとり、うるおいを保ちます。

作業は全て手作業、石けんが入っている袋も奥州のおばあさんの手作りです。

問い合わせ先：株式会社ファーマンステーション

岩手県奥州市水沢区立町13番地 旧天瓢蔵

TEL：0197-23-2760 FAX：03-6277-1047

Email：info@fermenstation.jp 価格2,000円（税込）

<http://www.fermenstation.jp>



2 Chos コインケース Mr.Zenny

Mr.ゼニーのネーミングと気だるそうな表情で愛嬌のあるコインケース。ウェットスーツ素材を活かした優しい感触と鮮やかなカラー。リングがついているので色々なモノに吊り下げて使用もできます。ファスナーを開封すると舌を出したゼニーが出現。小銭の取り出しも口を大きく開いてくれるので使い勝手も良く頼もしい存在。

問い合わせ先：株式会社モビーディック

宮城県石巻市鹿又字嘉右衛門345

TEL：0225-75-3730 FAX：0225-75-2888

Email：acc@mobbys.co.jp 価格1,260円（税込）

<http://www.mobbys-acc.com/>



3 しし福宝箱

しし福宝箱は、宮城県東松島市大曲浜地区に古くから伝わる大曲浜獅子舞をもとに生まれました。勇ましい表情と勢いよく飛び出した鼻毛を特徴とする獅子は、東日本大震災後、傷ついた土地や人々を励ます為に舞い続けてきました。そして地域の誇りとして愛された獅子舞が、東松島市の仮設住宅に住むお母さん方の手によって、小さな宝箱になりました。ぱかぱかと獅子舞の口を開けたり閉じたりする音は、まるで本物の獅子が舞うように軽快に響きます。

問い合わせ先：一般社団法人 おがるスターズ

〒981-0505 宮城県東松島市大塩字緑ヶ丘4丁目4-4

グリーンタウンやもと応急仮設住宅 ひまわり集会所

TEL/FAX：0225-82-6627

Email：himawarishukaijo@gmail.com 価格800円

<http://himawarishukaijo.jimdo.com>



4 ぼんず葉っぱしおり

岩手県大船渡市の津波被災松を使った被災松再生しおり。3枚の葉っぱをつなげた形となっており、人々とのつながり・絆をあらわしている。価格の内10%が岩手県大船渡市へ寄付され、同市の復興につながる商品となっている。

問い合わせ先：大船渡津波復興支援 ぼんずプロジェクト

岩手県大船渡市大船渡町字上山1-1

TEL：080-3327-5308 FAX：0192-26-3746

Email：bondsofunato311@yahoo.co.jp 価格360円

<http://bonds-ofunato.shop-pro.jp/>



東北6県 EPOトピックス



心身ともに健全な心の優しい道徳的な社会人を育成するための子ども・青少年健全育成サミット

8年間に渡り青森県立五戸高等学校1年生と当NPO法人会員で荒れた山を伐採し毎年約500～700本の広葉樹を植樹し、里山づくりをしている。

■活動の主たる目的

(1) 自然環境の保全を図る活動

これまで河川は治水・利水の役割を重視して整備されてきたが、近年の経済成長によってゴミが増え、生活排水が汚れたまま川に流れている状況が見られます。また、森は経済効率が低いと、至る所で手入れされずに放置されてきました。山・川・海の世界環境保全を抜きにしては、将来の生活環境が決まってしまうと、地元の五戸高等学校1年生（約70名）と当NPO法人会員、地域住民の協働で、通算10年間植樹祭を開いて、生物多様性と生態系維持に貢献し、地球温暖化防止

活動としても、森・川・海を豊かにするため、約8,000本の広葉樹を植林して里山づくりをして参りました。森をつくることで腐葉土ができ、魚介類の餌となる植物プランクトン、水中の溶存酸素が増え、生物の住みやすい環境になり、最終的には海の活性化につながります。この生物間のバランスが崩れると、バランスの取れた自然環境をつくるには数十年かかってしまいます。我々はこれより自然環境づくりを合言葉に、森・川・海の保全に努めなければなりません。自分たちが今できる活動が未来の子どもたちの安全で豊かな生活環境へとつながります。

新しい三陸の魅力の発見や創出へ繋げるコミュニティプラットフォームを目指して

2011年3月11日、東日本大震災が発生したあの日、海辺にほど近い旅館で働いていた私は、津波に追われる様に裏山に逃げて一命を取り留めました。復旧の兆しすら感じられない瓦礫の山をただ呆然と眺める日々を救ってくれたのは全国から訪れるボランティアの皆さんです。様々な方の支えや地域との繋がりを感じながら活動を続け、2012年4月「三陸ひとつなぎ自然学校」を立ち上げました。

震災から2年が経過し、地域の変化とともに私たちの活動も徐々に変わりつつあります。全国から支援で訪れる方々に対し、支援活動に地域の魅力を感じる観光の要素を加えた

「ボランティアツーリズム」を、2011年9月の開始以降、1,000人を超える方々にご利用いただきました。現在は地域に眠る資源を掘り起こし、自然環境や食文化、歴史や暮らし等を感じて頂きながら、共に新しい地域づくりを担う関係性の構築を目指しています。

また、震災の影響により子どもたちがのびのび遊べる場所が減少したことを受けて、放課後の居場所づくりを目的とした「放課後子ども教室」（平日15時～17時半まで実施）と、三陸の豊かな自然に触れることにより、生きるチカラや地元愛を育むことを目的とした環境教育プログラム「さんつなくらぶ」を実施して

東北6県 青森 EPOトピックス

特定非営利活動法人緑豊かな自然環境を育てる会

- 理事長：島山 俊雄
- 事務局：〒031-0813 八戸市大字新井田字石動木平19-60
- TEL/FAX：0178-25-6025
- HP：8V79u@bma.biglobe.ne.jp

(2) 子ども・青少年の健全育成活動

自然環境体験学習をしている子どもたちが心の優しい・道徳的で心身健全な社会人に成長することは、IPCCで証明されています。そうした子どもたちを育てていくことが、地域社会の大きな役割でもあります。子どもたちの未来を願い、地球温暖化防止活動と生物多様性と生態系維持の意味、さらには、森は海の恋人の意味もあわせて理解してくれると確信しています。



東北6県 岩手 EPOトピックス

三陸ひとつなぎ自然学校

- 〒026-0411 岩手県釜石市橋野町34-46-1
- TEL/FAX：0193-55-4630
- HP：<http://www.fukko-todai.com/santsuna/>
- 連絡先：ホームページのお問合せより

います。

これらの活動を全国から訪れるボランティアの皆さんの力を借りながら実施し、地域内外の人々との交流から新しい三陸の魅力の発見や創出へ繋げるコミュニティプラットフォームを目指し、長期的復興や産業の発展へ繋げる地域づくりを実践します。

木を植えています

- ☆多くのことはできないが、何か小さなことを探し、微力ながら行動に移しています。
- ☆そんな積み重ねが「世の中の為、人の為」になればと思っています。
- ☆人の心が温かく何かの手助けになればと思っています。
- ☆よりよい社会のため、貢献出来ればと思っています。

■活動目的

- ◆自然環境保護を目的として10年前に設立し、主に仙台エリアで50名の会員にて活動中。

■活動内容

- ◆東日本大震災の津波により、岩手から北関東の約300kmの海岸の防潮

林約5000万本が倒木。その機能を失い自然環境破壊により多大な塩害が想定されています。

- ◆地元や海外のNPO団体、国土交通省および地方公共団体の協働で防潮林再生がスタートしています。



東北6県 宮城 EPOトピックス

特定非営利活動法人 社の都仙台ナショナルトラスト

- 〒989-3123 仙台市青葉区錦ヶ丘7-13-6
- TEL: 090-7076-9320 (根本まで)
- HP: 日本財団のCANPANに記載

- ◆当NPOは、防潮林再生活動に特化し、20,000本のポット苗づくりと植樹のボランティア活動に参加しております。
- ◆苗づくりは地元で種子を採取し、2～3年で育てて防潮林にかえます。
- ◆植樹方法や樹種及び育苗等は植物生態学者であり、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の指導を受けております。

当NPOのみどりの里親制度とは、自宅2～3年で10～50本のポット苗を育てていただける方を募集中です。

ネイチャーゲームで自然となかよくなるう!

～“名前を知る”だけじゃない、自然の楽しみ方～



私達は、「ネイチャーゲーム」という、自然を五感で感じる楽しい活動を行っています。公益社団法人の全国組織は、全国に1万人以上のリーダー（指導員）が所属する団体で、私達はその秋田県支部です。

ネイチャーゲームのアクティビティ（活動）は150種類余り。ゲームとは言っても、1人でじっくりできるものもあり、いつでもどこでも誰とでもでき

す。私達自身、毎回思いがけない発見・美しさ・不思議さ・自然との一体感を感じています。

私たちが一番大事にしているもの、それは“知る”こと以上に自然を体で感じることです。自分なりに自然を感じ味わい、素晴らしさを感じ、さらに共有し合い分かち合う（シェア）することで、自然を大切に自然と共に暮らす意識を広げていきたいと考え、様々な場所で活動をしています。

本協会の主な活動は会員同士の研修や、様々な団体からの要請に応じた体験プログラムの提供などですが、一般の方向けには、県内に2つある地域の会（県北・中央＝秋田なまはげシェアリングネイチャーの会、県南＝雄勝シェアリングネイチャーの会）が、10

東北6県 秋田 EPOトピックス

秋田県シェアリングネイチャー協会

- 事務局：近藤
- TEL: 090-2957-0752(18:00～21:00)
- E-mail: chifunon@cna.ne.jp
jimukyoku@naturegame.or.jp
(公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会)

月の第3日曜日に「全国一斉シェアリングネイチャーの日」のイベントを行っています。身近な自然のおもしろさ、素晴らしさに「目からウロコ!」になること请け合いです。ぜひご参加ください。

興味をもたれた方は、ぜひ日本協会HPをのぞいてみてください。

(<http://www.naturegame.or.jp/>)



鶴岡市子ども環境かるた事業

かるたでつなごう!地球にやさしいメッセージ

「環境つるおか推進協議会」は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき平成21年2月に設立された地域協議会であり、市民、事業者、行政等が協働して鶴岡市の特性に即した各種環境啓発事業などを展開しております。

「鶴岡市子ども環境かるた」については、当協議会で市民の環境意識の向上を目的に毎年開催している「環境フェアつるおか」の一環として、子ども達の素直な目線で、かるたという手軽なゲームにメッセージを託し、家族みんなで地球温暖化のこと、省エネのことなど身の回りの環境問題に気づき、考えてもらおうと平成23年と24年の2年間に渡り、かるたの絵札と読み札を小中学生から募集したもので、延べ843名から応募がありました。その中から「あ」から「わ」まで

の各音1作品ずつ当協議会で選考し、全44音のかるたを「鶴岡市子ども環境かるた」として認定しました。

そして、認定されたかるたは、家庭への普及をねらい、鶴岡書店組合の協力により製品化し、市内書店にて販売を実施しております。なお、普及を図る上で、販売価格を抑えることを考え、収納ケースも含め各行ごとシート状とし、購入者自らが切り離すようとしたところ1部630円という価格を実現しております。

他にも鶴岡市と連携し、各小中学校や社会教育施設、幼児施設などにかかるたを配布してもらい、環境教育ツールとしての活用も図っております。また、今年2月には、幼児、児童を対象とした「第1回鶴岡市子ども環境かるた大会」を開催し、多くの市民から参加をいただい

東北6県 山形 EPOトピックス

環境つるおか推進協議会

- 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9-25 (鶴岡市環境課内)
- TEL: 0235-25-2111 (内線719)
- FAX: 0235-22-2868
- E-mail: kankyo@city.tsuruoka.yamagata.jp

おります。なお、この大会は、第2回目の開催も決定しており、本事業の新たな広がりをみせています。



安心して暮らせる環境を提案

～今（放射線対策）と未来（新エネルギーの提案）にチャレンジ～

私たちは南相馬市で要介護予防への取組みの他、放射線量の測定、新エネルギーの利用促進を主として活動しています。

■あなたの住まいの安否を知る

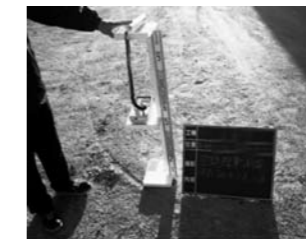
福島では元通りの生活を願う一方、目に見えない放射能への不安におびえながら暮らす方が多くいらっしゃいます。

私たちはこの問題に取り組むべく、メンバー内で放射線関連の資格をとり、放射線量測定事業を開始しました。家および付近の放射線量を測り、より安全に暮らすことのできる生活動線をアドバイスします。*

また要望があれば放射能の遮蔽処置を行うことも可能です。地元の方ができる限り安心して生活できるようにサポート

しています。

※ 助成を受けられる場合があります。



住居や通学路等の放射線量を測定し、子供たちに安全な場所を探す

■いのち・環境再生機構

いのち・環境再生機構は、高齢になっても生きる素晴らしさを実感できる生活を目指し、要介護予防と安全な環境づくりを基軸として、震災前年に発足した団体です。

東北6県 福島 EPOトピックス

特定非営利活動法人いのち・環境再生機構

- 設立：平成22年11月12日認証
- 理事長：阿部しずえ
- 福島県南相馬市原町区青葉町一丁目200-6
- TEL: 0244-23-4436
- FAX: 0244-26-8279
- HP: <http://so-soma.net/>
- E-mail: info@so-soma.net

震災を受け、山梨県への避難を誘導し、山梨県笛吹市で避難所の開設・運営をしています。関連して、高校生支援、東日本大震災三回忌法要等を行いました。

しかし、自己資金のみで運営しているため、限界を感じながらもチャレンジし続けています。



原発20km圏内の小高工業高校を支援しました。(左) 就職活動(旧グランドプリンスホテル赤坂) (右) 入学式(山梨県立塩山高校)